

区分	総合科学系科目 人間の理解	科目名	心 理 学			教員名	志 賀 令 明		
開講年次	1年次前期	必修 選択	必修	授業形態	講義	単位数	2	時間数	30時間

授業の概要

心理学の基本となる考え方を学び、人間理解を深めることで、将来医療従事者として必要な対人関係能力の基礎を作る。

学習目標

一般目標

- ①情報処理系の担い手としての人間を知る。
- ②欲求・情動体験の主体としての人間を知る。
- ③個人の気質・性格類型とその特徴について知る。
- ④家族の変容と、現代社会での家族像について知る。
- ⑤現代社会と、特有な心の変化について知る。
- ⑥入院患者のストレスについて知る。

行動目標

- ①感覚・知覚・認知の過程とその異常について理解できる。
- ②欲求の種類・欲求不満と防衛機制について説明できる。
- ③気質の3類型とその特徴について説明できる。
- ④家族像の歴史的な変化と、現代社会の家族の特徴を理解できる。
- ⑤現代社会の変化が、「こころ」に対して与えた影響について説明できる。
- ⑥入院患者のストレスについて説明できる。

授業内容（学習項目）

回	項 目	内 容（キーワード等）
1	感覚の心理学	五官の分類・感覚の異常と自我
2	欲求とその分類	一次欲求と二次欲求について
3	一次欲求とその障害 1	肥満と 2 型糖尿病
4	一次欲求とその障害 2	摂食障害
5	二次欲求とその障害 1	安全の欲求とその障害
6	二次欲求とその障害 2	愛情の欲求とその障害
7	二次欲求とその障害 3	所属・承認の欲求とその障害
8	不安とストレスの諸問題	不安の生理心理と不安の三つの表現型
9	人格と気質類型	クレッチマーの人格類型
10	人格と性格類型	性格検査で自分の性格を知る
11	入院患者の心理	入院患者や慢性疾患患者の体験する心理状態
12	近代社会・ポストモダンと文化の変容	1980 年代以降の日本の文化の変化
13	近代社会・ポストモダンと人格障害	1980 年代以降の日本の人格障害像の変化
14	発達とその障害 1	自閉症スペクトラム障害
15	発達とその障害 2	注意欠陥多動性障害など

テキスト

志賀令明、岩崎祥一（編）看護のこころ・患者のこころ 福村出版

参考書

授業内で適宜指示

成績の評価方法

期末試験による

教員から学生へのメッセージ

人間の心のありようは文化社会の変化に伴って変わります。急速な変化を遂げる日本で、人々のこころがどのように変化しているかを一緒に学びましょう。

区 分	総合科学系科目 社会のシステム	科目名	基礎統計学			教員名	林 正 幸		
開講年次	1年次前期	必修 選 択	選 択	授業形態	講 義	単位数	2	時間数	30時間

授業の概要

小学校で算数を、中学・高校で数学を学んできた。

算数は、日常生活に結びついた基本的な数や図形、立体の感覚を身につけることを主な目的としている。この中で割合や百分率の概念を取り扱い、出来事をグラフで表す手法を学ぶ。これは生活現象の統計的取り扱いの初歩であった。

中学校から学ぶ数学は日常生活にとどまらず、その発展系や応用を学習するが、数学とは、そもそも算数的体験から生まれた伝統的な数論や幾何学などの分野の成果として、またそれらの成果を肯定的に応用した公理と推論からなる理論体系を指す。数学の主要な分野は歴史的には、人類が農耕を行うと共に必要となった次の三つの要素から生じたものである。農作物の分配管理や商取引のための「計算」、農地管理のための「測量」、そして農作業の時期を知る暦法のための天文現象の「周期性の解明」。これら三つは、数学の大きな三つの区分、構造、空間、変化に対応し、その研究方法は「代数学、幾何学、解析学」の三分野に大別される。

これら数学の重要な応用に統計学が挙げられる。統計学は自然現象の記述やその解析、予測を確率論的に可能にし、最先端のすべての科学において利用されている。

基礎統計学では、医療・看護に必要な統計の基礎と応用を、数式からでなく実験的事実から理論に結びつけ学習する。

学習目標

一般目標

人は何かの行動を起こす時、情報をよりどころとして判断し、その結果に従って取るべき方向を定めている。しかし、我々が接する情報は種々雑多で偏りや間違い、誇張や矮小を含んでおり、正確な判断をするには個々の情報は役立たない。

そこで、個々の情報を何らかの基準や属性に従って整理し、その整理された集団の情報を標準化・基準化して対照と比較し、行動・判断の基準とするのである。

この整理するひとつの方法を「統計」という。換言すれば「統計」とは集団を構成する個々の要素の分布を詳らかにし、その集団の性質を数量的に統一的に明らかにして、比較や判断がし易いようにする数学的手法である。本科目では、医療・看護に必要な統計の基礎を、数式からでなく実験的事実から理論に結びつけ学習し、その応用を学び、統計学を別側面から応用した指標統計学、疫学を中心とした「保健統計学」に繋げることを目的・目標とする。

高等学校の課程では、数学Aにおいて「場合の数と確率」、集合論、Bでは「統計学(代表値、散らばり、相関係数)」、Cでも「統計(正規分布、母集団と標本の関係、標本平均とその分布)」や「確率と確率分布」が、カリキュラムとして学習したことになる。しかしながら、様々な事情で統計に関連した部分の学習の状況が必ずしも充分でないので、本科目では本来高等学校で修習すべき統計学の基礎を学びなおす。

履修は各自の判断に任せるが、この基礎統計を理解しない限り、次のステップである「保健統計学(必須科目)」の理解は不可能であるので留意すること。履修の是非を決める前に、その判断のための機会を与えるので、統計学が理解できているかどうかを客観的に自己評価し、その結果をもって判断して欲しい。

行動目標

数学は、その概念や論理を明瞭かつ簡潔に表すため、式や記号が多用される。このため暗記科目と思われがちで、実際そういう学習法で失敗する学生が多い。数式や記号は実際に起こっていることを記述しているだけで、その意味の理解が重要であって丸暗記に全く意味はない。統計学の理論と方法について感覚的に理解し、「本質の理解」に努めて欲しい。

また、本学は医療系大学であり、その中の看護学部である。そのため、本科目では保健、医療、看護において客観的判断求められるとき、客観的データを科学的な手法に基づいて集計、検討、比較し、正確な判断が得られるよう、統計学を現象の理解や研究に応用が出来ることの基本を養うことを目的として学習する。日頃から「統計的見方、確率論的見方」を養うよう努力して欲しい。

授業内容（学習項目）

回	項目	内容（キーワード等）
1	高校での統計学履修のおさらい	高校課程における学習成果を再確認する
2	統計の歴史と法律、看護と統計	統計の歴史、法律との関わり、目的・目標
3	統計と情報の整理（混沌から本質へ）	情報の整理と単純化、比較（5W+1H）
4	分布、全体と標本	母集団と標本、無作為抽出、分布の表現
5	平均値と標準偏差 1	いろいろな代表値と平均値
6	平均値と標準偏差 2	平均値の意味とその信頼性
7	平均値と標準偏差 3	データのばらつき
8	平均値と標準偏差 4	平均値のばらつき具合とその応用
9	平均値、標準偏差の統計的応用	母平均の推定（信頼区間）
10	平均値、標準偏差の統計的応用	相関係数
11	統計演習（問題点の発掘とデータ収集）	テーマを見つけて実際に統計をやってみる
12	統計演習（データ分析）	同上（データ分析）
13	統計演習（データの比較と表現、グラフ）	同上（データの比較と表現）
14	χ （カイ）2乗分布（1）データの観測	χ 二乗分布の意味（サイコロの出目分布）
15	χ （カイ）2乗分布（2）仮説設定と検定	理論と実際の差異（ズレ、誤差）の実態

順序は進捗により変えることがある

テキスト

厚生統計テキストブック ー第5版ー 厚生統計協会 2000円

高等学校 数学Bの教科書

講義の時に配るプリント（ファイルを用意し、整理した上で毎回必ず持ってくること）

必要に応じ、各自図書館や本屋で自分のレベルや考え方に適した書籍を選択、使用すること

参考書 自分で必要なものを選ぶこと

成績の評価方法 試験80%、提出物20%

教員から学生へのメッセージ

遅刻はクラス全体の迷惑となるので不測の事態以外認めない

充分余裕を持って通学すること

配布したプリントは、必ずファイルに綴じてもってくること。

統計とはかく難しい学問と考えられがちだが、数学に弱い人も楽しんで理解できるような内容としている。講義は毎回完結型でなく、全体的な関係がある。積み重ねが大切なので地道に勉強すること。

判らないことは記憶が新しい間に質問にいくこと。予習は不要、復習は必須である。道筋を大切に考え理解することが大切である。

なお、大学における学習には学生としての責任や義務そしてマナーが求められる。高校とは異なった「自修」と「理解」そして「発展」の精神を基本に頑張ること。全ては自己責任として理解しておくこと。この科目の理解度は「保健統計学の理解に大きく影響」するので留意しておくこと。

区分	専門基礎系科目 コミュニケーション	科目名	コミュニケーション論Ⅱ (異文化コミュニケーション)			教員名	中山 仁			
開講年次	2年次通年	必修 選択	別	選 択	授業形態	講 義 実 習	単位数	2	時間数	60時間

授業の概要

さまざまな文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを図るための基本的な態度を身につける演習を行う。また、コミュニケーション・ギャップが生じた場合に、原因となる文化的背景や思考パターンをいかに正しく理解し、問題解決に導くかという点についても学ぶ。授業では、テキストを読んで異文化コミュニケーションの実際とその背景を理解するための概念を学ぶと同時に、ビデオ教材も活用して、異なる文化的背景を持った人々の意見について考える。また、学生間の違いをより広い意味での「文化」という観点から理解する機会を与え、学生それぞれの立場から活発な意見を交換する活動も行う。

学習目標

一般目標

- ①英文資料や映像資料から異文化コミュニケーションの理解に役立つ概念や考え方を学ぶ。
- ②英語圏をはじめとするたの文化圏の人々との言語コミュニケーション・スタイルについて理解する。
- ③日本人および自分の価値観・思考パターンを客観視するための態度を養う。

行動目標

- ①異文化で起こっている事態について、その文化的背景に強い関心を持つようになる。
- ②それぞれの文化に優劣をつけるのではなく、文化を相対的に捉える態度を養う。
- ③自己と他の人々の価値観・思考パターンの違いを意識化し、理解することができる。
- ④自己理解を深める。

授業内容（学習項目）

回	項 目	内 容（キーワード等）
1	Course Overview	Introduction
2	Culture and identity (1)	Culture, Identity etc.
3	Culture and identity (2)	Socialization
4	Hidden Culture (1)	Hidden culture
5	Hidden Culture (2)	Perceptiveness
6	Stereotypes (1)	Stereotype
7	Stereotypes (2)	Generalization
8	Words—communication gaps (1)	Messages behind words
9	Words—communication gaps (2)	Messages behind words
10	Communication without words (1)	Nonverbal communication
11	Communication without words (2)	Gesture, Body language etc.
12	Diversity (1)	Discrimination
13	Diversity (2)	Similarities and Differences
14	Perception	Describing and interpreting
15	まとめ	
16	Communication styles (1)	Directness
17	Communication styles (2)	Use of silence
18	Communication styles (3)	Cognitive styles
19	Communication styles (4)	High/Low context culture
20	Values (1)	Personal values
21	Values (2)	Cultural values
22	Deep culture—Beliefs and Values (1)	Beliefs, Values etc.
23	Deep culture—Beliefs and Values (2)	Individualism and collectivism
24	Culture shock (1)	Culture surprise/stress
25	Culture shock (2)	Culture shock/adaptation
26	Polite fictions (1)	Feeling of equality
27	Polite fictions (2)	The American/Japanese way of thinking
28	Japanese culture (1)	Rediscovering “cool” Japanese culture
29	Japanese culture (2)	Developing self-awareness
30	まとめ	

テキスト

教室で指示をする。

成績の評価方法

演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合して評価する。

教員から学生へのメッセージ

この授業を通して、①心の広い医大生になる、②自分の失敗を笑えるようになる、③自分も変人かもしれないけれど、別に不思議なことではないと思えるようになることを期待しています。

区分	専門基礎系科目 社会のシステム		科目名	保健統計学		教員名	林 正 幸		
開講年次	1年次後期	必修 選択	必修	授業形態	講義	単位数	2	時間数	30時間

授業の概要

医療・保健・看護に従事するものが、その職務上に客観的判断が必要となった時、混沌とした主観的なデータを客観化したり、あるいは数値データを得て、それらのデータを科学的な理論と手法に基づいて集計、検討、比較し、正確な判断が求められる。或いは、患者や一般住民に対し、簡便かつ確かな情報を伝えるため、単純な数値化（指標化）や視覚化（グラフ化）は重要な手段である。このため看護学・保健学の分野で用いられる種々の指標、統計の基本と応用について、情報科学演習と同期しつつ修得し実際の仕事や研究に応用出来る能力を養う。また、証拠に基づいた医療・保健実践のため、疫学の基礎と保健・看護への応用についても学習する。

加えて、地球規模での保健が必須とされている現在、国際保健統計についても学ぶ。

学習目標

一般目標

人は何かの行動を起こす時、情報をよりどころとして判断し、その結果に従って取るべき方向を定めている。しかし、我々が接する情報は種々雑多で偏りや間違い、誇張や矮小を含んでおり、正確な判断をするには個々の情報は役立たない。そこで、個々の情報を何らかの基準や属性に従って整理し、その整理された集団の情報を標準化・基準化して対照と比較し、行動・判断の基準とするのである。

この整理するひとつの方法を「統計」という。換言すれば「統計」とは集団を構成する個々の要素の分布を詳らかにし、その集団の性質を数量的に統一的に明らかにして、比較や判断がし易いようにする数学的手法である。本講義では、保健医療に関わる統計的指標や方法を学び、数字を読み取り現象を理解したり、数値情報を実践に応用する基礎を体得することにある。

行動目標

身の回りにあふれる数字に興味を持ち、それらがどのような情報と理論によって作られているかを洞察すると共に、それら情報を読み取り、実際どう応用するのかを日々考え、数字の情報を生活や学習に役立てて欲しい。

授授業内容（学習項目）

回	項 目	内 容（キーワード等）
1	統計学的検定（ χ^2 、正規（Z）検定）	仮説の設定、適合度の検定、正規検定
2	2つの平均値の比較（t、F検定）	検定の条件設定、検定と分散比
3	分散分析と多重比較、多変量解析と回帰	分散分析、多変量解析の基礎
4	ノンパラメトリック統計、数理統計まとめ	ノンパラメトリック手法の基礎、まとめ
5	保健と統計（正常と異常、量と質）	医療・看護と統計、正常範囲、量と質
6	指標と標準化	指標の意味、情報の標準化（コード）
7	比、比率、厚生統計	比べることの本質、厚生指標とその成り立ち
8	国際統計、人口静態と人口動態	人口静態と人口動態
9	標準化の理論と手法	標準化の理論と手法（直接法、間接法）
10	生命表、国際保健と統計	生命表、国際保健と統計
11	疫学の歴史、理論と方法	疫学の歴史、基本的理論と方法
12	疫学の実際と応用	疫学の実際、応用理論と方法
13	統計の疫学的見方	疫学における統計の関わり
14	疫学の応用	疫学の成果
15	まとめ	まとめ

テキスト

(以下2点は必ず購入のこと。これらは、印刷された細かい数字を追い、頻繁に書き込みを行うので、教科書の無いものは受講できない。当該年度のを指定通り購入すること)

厚生統計協会『国民衛生の動向』2千数百円(新年度版は9月以降の発刊となるため9月以降に購入すること)

日本疫学会『はじめて学ぶやさしい疫学 一第2版一』南江堂 2千円程度

参考書

その他、図書館に多数用意したので、自分の理解しやすいもので勉強すること。

成績の評価方法

試験80%、提出物20%

教員から学生へのメッセージ

統計はとかく難しい学問と考えられがちだが、数学に弱い人も楽しんで理解できるような内容としている。積み重ねが大切なので地道に勉強すること。判らないことは記憶が新しい間に質問にくること。復習は必須である。教科書は講義で使うので必ず入手すること。

なお、大学における学習にも責任と義務そしてマナーが求められる。高校とは異なった「自修」と「理解」の精神を基本に頑張ること。

配布したプリントは、必ずファイルに綴じてもってくる。隣のものに見せてもらうことは、他の学生に迷惑となるので禁ずる。

講義で理解に不安があれば、講義中もしくは記憶の新しいうちに質問すること。

遅刻はクラス全体の迷惑となるので不測の事態以外認めない。充分余裕を持って通学すること

注意

確率、平均値や標準偏差、相関、分布など、基礎統計が理解出来ていることが基本条件となる。

これら高等学校で学ぶべき統計の基礎を学習していないもの、理解に自信のない者は「**基礎統計**」を履修すること。履修しなかった不利益は、本人の責に帰する。

保健統計学と共に基礎統計学、情報科学演習は関連を持ち、学際として目的、目標を一体となしている。なのでそのつもりで学習すること。

区 分	専門基礎系科目 人間の理解	科目名	生 命 倫 理 (バイオエシックス)			教員名	太 田 操		
開講年次	3年次後期	必修 選択	別 必 修	授業形態	演 習	単位数	1	時間数	30時間

授業の概要

近年の科学技術の発達は、医療現場を大きく変えると同時に複雑な問題を引き起こしている。それらは、「生」とは「死」とは「生命」とは何かという根源的な問いへと我々を導く。生命倫理は、生命科学や医療分野において、道徳的な価値や原理に照らして人間と人間・自然・環境・社会との関係を体系的に探求する学問である。

学習目標

一般目標

- 1) 生命倫理を学ぶ意義について理解する。
- 2) 医療現場で直面する倫理問題を考える。

行動目標

視野が広がり自己の倫理観を深めることができる。

授業内容（学習項目）

回	項 目	内 容（キーワード等）
1・2	生命倫理（バイオエシックス）とは	授業計画の提示、学生による計画立案 バイオエシックスの誕生
3・4	いのちの始まりに関する生命倫理①②	生殖技術、人工妊娠中絶など
5・6	いのちの〈質〉に関する生命倫理①②	臓器移植、脳死、新生児治療など
7・8	いのちの終わりに関する生命倫理①②	死の定義
9・10	倫理に関する基本理念①②	倫理原則、正義について
11・12	バイオエシックスにおける看護の責任①②	看護における倫理的機能
13・14	ディベート	
15	まとめ	ディベートの講評、授業全体の評価

参考書

参考文献を開講時に提示する。

成績の評価方法

授業中のミニレポート、期末レポート

教員から学生へのメッセージ

各回のテーマは非常に重く、また、1つの正解がでるようなものではない。柔軟な思考や発想と積極的な参加を期待する。

区 分	専門基礎系科目 心と身体のしくみ		科目名	生涯発達論 I		教員名	志 賀 令 明		
開講年次	1年次後期	必修 別 選択	必修	授業形態	講 義	単位数	2	時間数	30時間

授業の概要

乳幼児期から老年期までの各ライフサイクルにある人の成長と発達に関して、主に心理・社会的な観点から捉え、その特徴と発達課題について学ぶ。また家族の発達の意義について学ぶ。

学習目標

一般目標

- ①発達心理学の複数の視座に基づく人間理解の仕方を学ぶ。
- ②現代社会に特有の発達の変容について知る。

行動目標

- ①フロイドの発達観を説明できる。
- ②エリクソンの発達観を説明できる。
- ③ピアジェの発達観を説明できる。
- ④エリクソンの時代と、現代での発達課題の差異について説明できる。
- ⑤現代社会特有の発達上の諸問題を説明できる。

授業内容（学習項目）

回	項 目	内 容（キーワード等）
1	フロイドの発達観	精神分析学の基礎的理解
2	エリクソンの発達観 1	乳児期から幼児期後期までの発達の理解
3	エリクソンの発達観 2	学童期から青年期までの発達の理解
4	エリクソンの発達観 3	成人前期・成人後期での発達の理解
5	エリクソンの発達観 4	老年期での発達の理解
6	ピアジェの発達観 1	感覚運動的発達期の理解
7	ピアジェの発達観 2	前操作的発達期の理解
8	現代社会と乳幼児期の諸問題	少子化の起こる諸要因
9	現代社会と学童期の諸問題	消費社会の進展と消費者化する子どもたち
10	現代社会と思春期の諸問題	なぜキャラ化が進展するのか
11	現代社会と青年期の諸問題	自己愛社会とデイスチミア型うつ病
12	現代社会と成人期の諸問題	格差社会と晩婚化・非婚化、中年のうつ病
13	現代社会と老年期の諸問題	家族・地域の変化と孤立する老年期
14	慢性疾患を持つ子どもと家族の心理	慢性疾患を持つ子どもとその家族の心理
15	老年期の諸問題	生活習慣病と老年期のうつ

テキスト とくに指定しない

参考書 授業時に指示

成績の評価方法 期末試験による

教員から学生へのメッセージ

現代社会はめまぐるしく変化しています。そのなかで、発達観もまた変化せざるを得ません。現代社会の変化に焦点を当てて、人間発達を考えます。

区 分	看護学専門科目 看護学の基本	科目名	看護学の基本			教員名	横 田 素 美(前半) 工 藤 真由美(後半)			
開講年次	1年次通年	必修 選択	別	必 修	授業形態	講 義 演 習	単位数	3	時間数	60時間

授業の概要

看護における基本的概念や基礎となっている考え方について学び、看護の専門性や果たすべき機能・役割について、看護理論家や看護研究者の知見を学び、学生個々が自らの考えを深めていく。

また看護におけるケアリングの位置づけを理解し、看護を展開するために必要な思考プロセスを学ぶ。

学習目標

(一般目標)

看護理論の主題である看護、人間、環境、健康の概念に関して、代表的な看護理論家の定義を学び、それぞれの概念ならびに概念の関係について理解する。ケアリングの概念を学び、看護実践の基本的な概念との関係を理解する。看護学の問題解決過程としての看護過程の発展経緯を理解し、看護実践のために必要な思考プロセスを理解する。

(行動目標)

看護の主要概念について説明でき、看護の概念枠組みの発展に寄与してきた代表的な看護理論家の特徴をまとめることができる。また看護の専門性ならびにケアリングの概念を説明でき、看護実践を展開する上での看護過程の重要性を述べることができる。

授業内容（学習項目）

回	項 目	内 容（キーワード等）
1	看護の概念（看護とは）	専門職としての看護（専門職の基本的概念および基準）、看護学と医学の歴史的発展の比較、アートとしての看護、科学としての看護
2	看護の主題である“人間”について	開放系としての人間（全体論、一般システム理論）、人間に基本的ニーズについて（マズローのニーズの階層構造）、人間の自己知覚について
3		
4	看護の主題である“環境”について	環境の概念、物理的環境、社会的環境、文化的環境
5	看護の主題である“健康”について	健康モデルについて（臨床モデル、役割遂行モデル、適応モデル、幸福主義モデル）、歴史的観点からの適応概念の変化
6		
7	看護理論について	看護理論と看護実践の関係、看護理論と関連諸科学、代表的な看護理論家について（フローレンス・ナイチンゲール、ウァージニア・ヘンダーソン、ドロセア・オレム、アイモジン・キング他）
8		
9	日本における看護職	日本の歴史から見た看護、看護制度（保健師助産師看護師法から見た看護の責務と専門性、看護職の資格）
10		

回	項 目	内 容 (キーワード等)	
11	諸外国における看護職の資格と育成について	関心のある国における看護職の資格や育成をグループに分かれて調べる。	
12	諸外国における看護職の資格と育成について	グループでの成果を発表し、共有し、日本における看護職の資格と育成と比較し検討する。	
13			
14	保健医療福祉の分野における様々な専門職と看護職の役割と機能	様々な専門職の専門性について、チームで協働する中で看護職が果たす役割と機能	
15	これからの看護における問題	社会構造や国民の意識の変化がもたらす看護の機能や役割への影響	
16	看護を可能にする要件	科学とわざ (art)	
17		ケアリング (講義、演習) (現象からある概念を見出すこと)	
18			ケアリング、共感、概念定義
19			
20			
21		クリティカルシンキング リフレクション メタ認知	
22			
23			
24	看護を提供するプロセス	看護にプロセスがあることとは	
25		看護過程	
26		人を理解するプロセスとは	
27		アセスメントすることとは	
28		看護診断	
29		看護計画	
30	看護を継続すること	看護を評価することとは 看護記録、診療録、個人情報	

テキスト

特になし。授業資料を配付。

参考書

Mayeroff, M. 著, 田村 真・向野宣之訳: ケアの本質—生きることの意味—, ゆるみ出版
その他随時紹介する。

成績の評価方法

授業への参加度、演習の取り組み、レポートにより総合的に評価する。

教員から学生へのメッセージ

看護学において重要となる考え方を学び、学生個々が目指したい看護職者としてのあり方を模索することを楽しみにしています。

区 分	看護学専門科目 看護援助方法論	科目名	家族看護学 V (母性看護援助論)			教員名	太 田 操 菱 谷 純 子 他		
開講年次	3年次前期	必修 選択	別 必 修	授業形態	講 義 演 習	単位数	3	時間数	60時間

授業の概要

女性のライフステージにおける発達課題や健康の諸問題を通して、母性としての機能が健全に発揮できるような援助の方法を学習する。また国内及び諸外国の実状を踏まえた上で、母子保健に関連する現状を学ぶと共に今後の課題を展望する。さらにマタニティーサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期・胎児期及び新生児期）にある対象の身体的・心理的・社会的変化の特性を理解し、援助の視点と方法について学習する。

学習目標

一般目標

- 1) 母性の概念および母性看護の意義と役割を理解する。
- 2) 女性のライフサイクルにおける特徴を理解し必要な援助を学ぶ。
- 3) マタニティーサイクルにある対象の看護を学ぶ。

行動目標

母性としての機能を発揮できるよう、対象のニーズに応じた援助の方法を考えることができる。

授業内容（学習項目）

回	項 目	内 容 (キーワード等)
1	母性看護概論	母性看護の概念、意義、役割
2	〃	母性看護に活用できる理論
3	母性看護に関する形態機能	生殖器の形態・機能
4	〃	〃
5	マタニティーサイクル	妊娠期・胎児期の看護
6	〃	〃
7	〃	〃
8	〃	〃
9	〃	分娩期の看護
10	〃	〃
11	〃	〃
12	〃	産褥期の看護
13	〃	〃
14	〃	〃
15	〃	〃

回	項 目	内 容 (キーワード等)
16	マタニティサイクル	産褥期の看護
17	看護過程	看護過程の概念、ウェルネス看護診断の考え方
18	マタニティサイクル	新生児期の看護
19	〃	〃
20	〃	〃
21	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常	妊娠期の異常
22	〃	分娩期の異常
23	〃	産褥期・新生児期の異常
24	ハイリスク妊産婦の看護	ハイリスク、合併症
25	〃	正常からの逸脱予防
26	看護過程	事例展開
27	ライフサイクルにおける母性看護	女性のライフサイクルと看護
28	〃	セクシュアリティと看護
29	母性看護概論	母性看護の変遷と動向
30	〃	母性看護の対象をとりまく社会

テキスト

- 1) 森恵美他、系統看護学講座 専門24 母性看護学 1 母性看護学概論、医学書院、2010
- 2) 森恵美他、系統看護学講座 専門25 母性看護学 2 母性看護学各論、医学書院、2010

参考書

太田操編著、ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第2版、医歯薬出版、2010

成績の評価方法

試験、レポート、平常点

教員から学生へのメッセージ

知識を断片的に覚えるのではなく、それぞれを関連させて理解してほしい。

区 分	看護学専門科目 看護学の応用	科目名	看護教育学			教員名	工 藤 真 由 美		
開講年次	4年次後期	必修 別 選択	必 修	授業形態	講 義	単位数	2	時間数	30時間

授業の概要

専門職教育としての看護教育を理解するために、看護教育の歴史的変遷、そして現状の看護学教育の目標、教育内容（カリキュラム内容）、教授方法を学習していく。また、現状の看護教育制度を考え、これから看護職が取り組まなくていけない課題を考える。加えて、卒業後、看護師それぞれがどのように専門職業人としての自身の研鑽を継続していくかを考えていく。

学習目標

一般目標

看護教育における大学教育の意義を考え、現行の看護教育制度の持つ問題点を考えることができる。

また、看護教育は、看護専門職として常に継続的な学習が必要であることが理解できる。そして、看護職としてのキャリア開発の方法を考えることができる。

行動目標

看護教育の現状について、問題意識をもち、その解決にむけて、自身が何を知って、何を行っていかなくてはいけないかを自覚できる。そして、大学教育を受けた看護職として、卒業後も実践の中で考えていくことができる。

授業内容（学習項目）

回	項 目	内 容（キーワード等）
1	教育とは？	教育とケアリング
2	専門職教育と大学における看護教育を考える①	専門職、専門職教育、大学教育、高等教育
3	専門職教育と大学における看護教育を考える②	
4	看護教育学とは？	看護教育学
5	看護教育制度の変遷と看護教育の現状①	看護教育制度
6	看護教育制度の変遷と看護教育の現状②	看護教育制度、准看護師問題
7	これからの看護教育に求められるもの～今後の看護教育制度を考える～①	看護実践能力、保健師助産師看護師法
8	これからの看護教育に求められるもの～今後の看護教育制度を考える～②	
9	これからの看護教育に求められるもの～今後の看護教育制度を考える～（GW）	
10	教育者としての看護師の役割	
11	看護継続教育～専門職として学び続けること～	継続教育、卒後教育、卒後研修制度
12	看護師としてのキャリア・プラン	継続教育、キャリア開発、大学院教育
13	専門看護師・認定看護師育成について	専門看護師、認定看護師
14	国際看護学	世界の看護教育
15		国際看護学

テキスト

特に定めない

参考書

適宜紹介する

成績の評価方法

授業、演習への参加状況とレポートで評価します。

教員から学生へのメッセージ

看護と教育は実に親和性のある領域です。なぜなら、その中核には「ケア」があるからです。看護と教育、この二つの概念をじっくりと考えられる授業にしたいと思います。

また、卒業を間近にむかえています。皆さんの看護師という専門職者としての学びが終わるわけではありません。卒業後も更に研鑽し、より高度な知識・技術を学び続けていくことが専門職には求められます。看護教育の現状だけでなく、今後皆さんが、看護師として、どのように学び続けていくかということを考えられる一歩となるような授業にしていきたいと思っています。